

総合患者支援センターニュース

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



センターの活動に関しては
ホームページ (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/>)
をご覧ください。

〒700-8558
岡山市鹿田町2丁目5番1号
岡山大学病院
総合患者支援センター
☎086-223-7151 (代表)
☎086-235-7744 (直通)

新副センター長 ご挨拶

総合患者支援センター 副センター長 石井亜矢乃

平成22年4月1日付けで、岡田宏基先生の後任として、副センター長を拝命しました石井亜矢乃です。

簡単に自己紹介をさせていただきます。平成8年に島根医科大学を卒業し、同年4月岡山大学泌尿器科に入局し、同時に岡山大学大学院に進みました。平成13年から3年間、関連病院である倉敷成人病センター泌尿器科に勤務し、2人目の妊娠を機に平成16年4月より再び岡山大学病院に戻り、今は女性泌尿器科をメインの仕事としながら働いております。

この度、泌尿器科教授でもある公文裕巳センター長のご推薦をいただき、当センターの副センター長として勤務することになりました。実を言いますと、最初はセンターの仕事と女性泌尿器科の仕事との両立を安易に考えておりましたが、実際やってみるとセンターの仕事の範囲は非常に広く、やりがいはあるものの両立は大変なことであると感じました。センター業務は相談業務(岡山県がん診療連携拠点病院としての相談支援を含む)、前方支援(紹介予約)、後方支援(退院支援・退院調整)を柱とし、その他、遠隔医療支援などの地域連携活動、OST(オストメイト支援チーム)、NST(栄養サポートチーム)、保健学研究科、歯学部の専門チームによる活動、ボランティア研修会や患者図書などのボランティア育成・活動、院内催事など多岐に渡っています。私の今までの仕事は泌尿器科という分野に特化しており、お恥ずかしながら同じ病院にいても、センターの仕事内容についてはよくは知らなかったというのが現状です。今後は泌尿器科での女性支援という視点だけではなく、ナース、ソーシャルワーカー、事務の方、ボランティアの方々など、様々な分野の方々と様々な範囲の仕事をして、様々な視点から患者支援をしていきたいと思っております。まずは、センターの活動の把握、理解に努め、総合患者支援センターのスタッフの一員として患者支援を担当してまいりたいと思っております。そしてセンターに求められていることは何なのか、その為にはセンターはどうあるべきなのかを考え、よりよいセンター作りを目指したいと考えております。まだまだ不慣れでご迷惑をお掛けすると思っておりますが、どうぞご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



～がん患者サロンを始めました～



今年の1月より、院内においてがん患者サロンを開催しています。これは、がんの治療や療養上の様々な相談の窓口であるがん相談支援センターが総合患者支援センター内に置かれ、ご相談を受ける中で、がん患者さんやご家族が自由に病気のことや生活上の不安、等を語り合える場があれば、と始めたものです。「院内で患者会を開いてほしい」というご要望も以前より患者さんからお聞きしていましたので、ようやくそれにお応えできる場をもつことができるようになりました。

サロンの開催は、奇数月の第3金曜日14時から16時まで、院内の会議室で開催しています。これまで3回開催し、当院に通院、入院されている患者・家族の方を中心に、のべ44名の方が参加してくださいました。お互いの発言を批判しないこと、プライバシーを守ることがルールです。テーマは決めず、その日参加された方の発言から、話が広がり、深まっています。

参加者のがんの種類や治療の段階が様々であることを当初は心配していましたが、病気の心配や不安、副作用のつらさ、自分の気持ちを十分に医療者に伝えられないもどかしさ、情報を知りたいけれど、多くを知ることにも不安、といった思いは、患者さん同士だからこそわかり合え、共感できるようです。「自分の経験が役に立てば」と積極的な気持ちで参加して下さっている方もおられます。また、「病気の不安を他の人がどのように乗り越えられたのか聞きたい」「これから病気がどうなるのか知りたい」と参加された方々が、会の終わりに「参加して勇気をもらえた」と話して下さった時には、自分の気持ちを言葉にすることや、語り合うことの計り知れない力を実感することができました。まさに“患者力”に支えられたサロンといえそうです。

まだまだ始まったばかりですが、サロンでつながった人の輪を大切に育てていくことができればと思っています。当センターの掲示板に開催のお知らせを出していますので、関心をお持ちの方はお気軽にご参加ください。

腫瘍センターで活躍しています!

歯科衛生士・杉浦 裕子

平成16年に本学修士課程入学以来、歯周病態学分野に所属し、今年4月からは本院医療技術部歯科衛生士室の職員として、がん治療中の患者さんの口腔内管理を主に行っています。私は大学院入学以来、血液がん患者さんの口腔感染管理に関わってきました。化学療法や放射線治療は、白血球を減少させるとともに、口腔内粘膜の荒れも引き起こし、感染が起こりやすくなります。このような問題の重症化は、早めに歯科受診し、口腔感染管理及び口腔ケアを徹底することで防ぐことができます。

がん治療には様々なものがありますが、程度に差異はあれ、治療の副作用が口腔内に現れ、その痛みや具体的な対応方法に悩んでおられる患者さんは多いようです。血液がん患者さんでの口腔感染管理の経験を活かして、患者さんの口腔内環境を整え、あるいは口腔衛生管理や歯科受診に関する相談に対応し、患者さんの支援をしていきたいと思っています。



オストミー協会 第22回全国大会 (北海道)にオストメイトサロンの ピアサポーターが参加

当院オストメイトサロンのピアサポーターが、発表者として参加されました。

“当事者相談活動「オストメイトサロンへの取り組み」”と題して、オストメイトサロンの立ち上げから今日までの経過やオストメイトサロンに

対しての思いとして「自分の経験を自分だけで終わらせるのではなく、他の人に伝えたり地域につないでいくことで、オストメイトが迷うことなく普通の生活ができるようになっていければ」「心と命を支えられる“より所”となるサロン」等、発表されました。「発表は緊張したが、大変よい経験になった。」と感想を話されました。



新たにセンターに関わるスタッフをご紹介します



<事務職員>

川崎法之



4月1日付けで公立学校共済組合中国中央病院より岡山大学病院に着任いたしました。支援担当といたしまして、患者支援係、医療連携係及び診療支援係の業務に積極的に関わり、一日も早く業務全体が把握できるよう頑張っております。ご迷惑をおかけいたしますが、皆様方のご協力をお願いいたします。

難波寿男



この4月から医事課医療連携係へ配置替えとなりました難波寿男と申します。

主な担当は、診療情報開示関係、地域連携としての診療予約関係の業務をさせていただきます。その他として移植医療に関する業務、セカンドオピニオンに関する業務、地域連携に関する一般的な業務、証明窓口業務等も担当となっております。医事課自体には、平成18年からお世話になっていますが、ここで新たなお仕事も加わっておりますので、心を引き締めて職務に精進していきたい所存です。ご指導、ご鞭撻等どうぞよろしくお願い申し上げます。

谷田正行



4月より事務の池尻係長の後任として、患者支援係を担当することになりました谷田と申します。医事課は、外来係・収入係・公費支援係などを経験してきました。この度、病院の重要な役目を担う総合患者支援センターの一員になれたことを喜んでおります。今までの経験を生かして、一生懸命頑張りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

<医療ソーシャルワーカー>

三崎めぐみ



私は以前精神科病院のデイケアに勤務しておりました。相談業務のなかで、患者様の笑顔にいつも助けられ、力を分けて頂きました。

患者様の不安や悩みについて聞かせて頂き、生活上の困りごとをひとつひとつ解決していくためにどうすればよいかを一緒に考えさせて頂けたらと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

河村 瑛



私は、今年大学を卒業し、支援センターでソーシャルワーカーとしてのスタートをさせていただくこととなりました。

ソーシャルワーカーとしての視点と同じ生活者としての視点を大切に、患者様やご家族が安心して医療を受けることができ、退院後の生活や転院へと繋げていけるように支援をしていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。





看護週間

副看護部長 黒木美津江

「看護の日・看護週間」「看護の心をみんなの心に」

厚生労働省が「看護の心、助け合いの心をすべての人々が分かち合う」ことを願い、5月12日を「看護の日」と制定してから今年で第20回目を迎えました。当院では5月9日(日)から15日(土)の看護週間で、看護部職員全員が「病院オリジナルワッペン」を着用して、「看護の心をみんなの心に」とアピールしました。さらに、院内数力所に「看護週間垂れ幕」展示や外来1階ホールに各部署・チームの「昨年度目標の成果・アピール」ポスター展示をしました。



また、5月12日(水)の看護の日に開催した「ふれあい看護体験」には、高校生16名と会社員1名の計17名の参加がありました。参加者達は、病棟・手術部等で看護体験や見学をして「やりがいを感じた」「看護職をめざしたい」等と感想を述べていました。「看護のこころ」を肌で感じてもらうことができたように思います。

歯の衛生週間



6月4日から10日までは歯の衛生週間でした。岡山大学病院では、6月3日に「健康と笑顔いっぱい歯磨きから」というテーマで歯の衛生週間イベントが行われました。

成人を対象としたブラッシング指導・小児を対象としたフッ素塗布をはじめ、「口元は口ほどにものを言う」「美味しく食べることは良いことですが…」の2つをテーマとしたミニ公開講座も開かれました。また、毎年恒例になっているチェロとピアノコンサートも行われ、多くの方々が聴きにきてくださいました。医歯科新設渡り廊下には、歯科の外来診療科の特徴を記したパネルを展示しました。

事前に募集をしていたぬり絵コンテストには多数の応募があり、10名が入賞され、表彰式が行われました。病棟からも見学者がこられ、大盛況に終わりました。

これからもこのようなイベントを通じて、より多くの方々に歯の寿命が健康増進に寄与することをお伝えできるようにがんばっていきたいと思います。

こころのケア 頭が勝手に考えてしまう ー自動思考とはー

最近、心理療法の一つである「認知療法」というものが注目されています。ある研究では、うつ病に対しても薬物療法と同じくらいの効果があると報告され、国内でも認知療法の専門家を育てようとする動きがあります。

認知療法というのは、歪んだ認知を変えてゆこうというもので、平たく言えば、ものの見方を変えるということです。「自動思考」というのは、ある状況の下では、ほとんどと言ってよいほど、ある決まった考えが浮かぶことを指します。先日、認知療法の国内での草分け的な先生が学生の講義に使われた例で、『学生の時に憧れていた先輩に駅のホームでばったり出会ったので、ついキャピキャピ話しかけたら、その先輩は、「ああ」と言っただけだった。さて、こんな時、あなたの頭の中にはどんな考えが浮かぶでしょうか?』という問いがありました。皆さんもそんな状況をちょっと想像してみてください。

さて、どんな考えが頭に浮かんだでしょうか? その時の学生の答えの一つは、「先輩はきっと疲れているんだろう」というもので、これには、その先生から、健全な思考ですね、とコメントされました。では、不健全な思考とはどのようなものでしょうか。例えば、「やっぱり先輩は私のことを嫌っているんだ」、とか、更に極端になると、「やっぱり私は誰からも相手にされないんだ」などとなります。このように、ちょっとした言葉や行動の刺激により、決まって自己否定的な思考が湧いてしまうのが、まずい「自動思考」です。皆さんのなかにも、思い当たる方があるかもしれません。これが度重なると、うつ気分が増してくるのは言うまでもありません。気分が落ち込みやすい方は、このようなまずい「自動思考」が働いていないか、一度点検をしてはどうでしょうか。

香川大学医学部医学教育学講座(前副センター長)
岡田 宏基